

育成を目指す資質・能力

伴って変わる二つの数量の関係を図や表、式に表して、規則性について考えることができるようにする。

ICT活用のポイント

授業と家庭が連続するクラウドを用いた授業構成

【前時の終末】

次時のめあてを設定する（問題1）

〔めあて〕どうすれば10段のときの棒の本数が
求められのだろう。

【家庭】

家庭学習で「問題1」の個別追究を行う。解決した結果をスクリーンショットにしてクラウドに提出する。

【本時】

1. 問題1の集団追究（まとめ①）を行う。
2. まとめ①を基に、問題2に取り組む。
3. 問題2の集団追究（まとめ②）を行う。
4. 適用問題に取り組む。

事例の概要

【家庭:自分の考えをもち、クラウドに提出】

- 前時の終末時に設定しためあての解決に向けて、ドライブ上に保存してあるプレゼンテーションソフトを活用しながら、自分で考えたり、保護者と協力したりします。家庭での個別追究は分かるまで考えることができます。そして、自分の考えをスクリーンショットにしてクラウドに提出します。

【本時について】

- まとめ①で、図で求めるとかくのは大変だが、分かりやすいこと、表で求めると、整理されていて見やすいこと、式にすると簡単に求めることができることに気付かせます。家庭での個別追究を基に、自分の考えをもって話し合い、めあてを解決します。
- まとめ②で図、表、式のよさについて考えを深めていきます。まとめ①を基に、グループで「規則性を見つけるのは図、表、式のどれがよいのか」について、じっくりと話し合います。

【算数・小4・「変わり方」②】

【事例におけるICT活用の場面① (前時→家庭学習→本時①)】

前時:めあての設定

問題1
どのようにすれば、10段のときの棒の本数が求められるのだろう。



図や表にすると分かりそうだな。式にもできるのかな？

家庭学習:個別追究

クラウドに提出

PC上で解いたり、ノートで解いたりしたものをスクリーンショット



考える時間が充分にあるし、家族にも相談できるわ。

本時:集団追究(まとめ①)

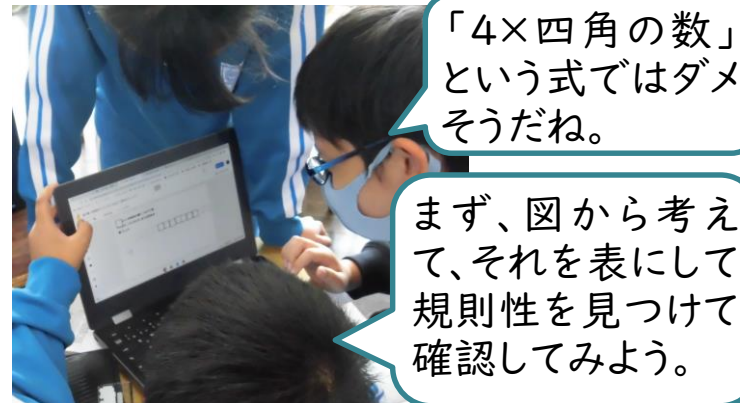
図をかくのは大変だったけど、ちゃんと数えれば、間違えることがほとんどないよね。



「棒の本数=4×段の数」の4は表を縦で見たときと同じ意味だね。

【事例におけるICT活用の場面② (本時②)】

問題2
図のように四角形を横につなげて増やします。10個のとき、棒は何本必要でしょう。



「4×四角の数」という式ではダメそうだね。

まず、図から考えて、それを表にして規則性を見つけて確認してみよう。

まとめ①より、式が便利なので、多くの児童が立式したが、立てた式が正しくないことに気付き、図や表を作成し始めます。それぞれのよさを味わうことで、具体から一般化に向けての素地をつくり、変わり方に対する考えを深めることができます。

【活用したソフトや機能】・クラウド